

# 都市の成り立ちと都市景観

2015/6/15  
駿河台大学法学部教授  
熊田俊郎

はじめに

「神は自然を創り、人は都市をつくった。」

都市1



都市1



## 都市2



## 都市2



## 都市1と都市2

- 都市1は立川市  
人口:179,040人  
面積: 24.36km<sup>2</sup>  
(2015年4月1日)
- 都市2は小平市  
人口: 187,328人  
面積: 20.51km<sup>2</sup>  
(2015年4月1日)

## 立川市と小平市

- 立川市の方が広くて人口は少ない。
- 小平市はより狭く、人口は多い。
- 一般にそのように認識されているだろうか？

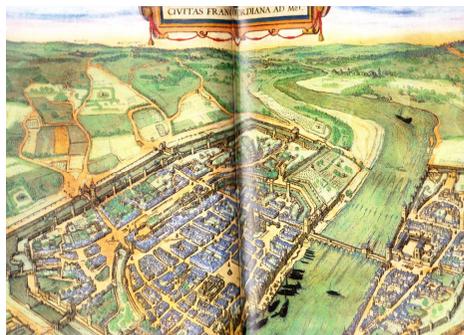
## 1.都市とは何か

- 「昔は日本はそうたくさんの都市の、入用でない国であったかと思われる。」(柳田國男『都市と農村』1929年)
- 「都市」はcity,town,cite,ville,Stadt,城,鎮,などの翻訳語・総称
- 日本では「ミヤコ」のちに「マチ」など
- 明治期に市制導入に伴い市
- 大陸では城壁などにより周囲と区別される場所で、ヨーロッパの場合しばしば自治団体となる。

## カルカソンヌ



## フランクフルト・アム・メイン古地図



補足

・春望(杜甫)

国破山河在

城春草木深

感時花濺淚

恨別鳥驚心

烽火連三月

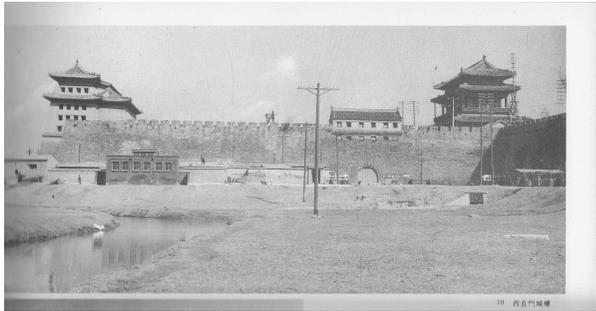
家書抵萬金

白頭搔更短

渾欲不勝簪

か「国」「城」は英語では何と表現できる

## 北京、西直門(内城西北角おそらく1910年代)



## 北京、崇文門付近



## 南京



## 補足

- ヨーロッパには、都市形態保存・都市規模規制の文化があるのではないか
- →グリーンベルトによる都市範囲の設定
- 平安京の形の崩れ、右京の早期放棄と六波羅
- 豊臣秀吉の御土居のユニークさ

## 都市の形態

- 郊外suburb  
都市域urbanに付属するもの、19世紀とくに鉄道の発達で発達
- 衛星都市satellite city  
大都市近郊の都市、英国で1903年から建設が始まるレッチワースなど田園都市garden cityがはじまりか?
- コナベーション(市街地連担都市)conurbation  
市街地が行政区画を超えて接続する都市、「連担」とも表記、P.ゲデスの造語(1915年)

## レッチワース



## 都市人口

- 世界的に見て先進国で約8割、全世界で約半分が都市人口

## 都市人口

表1 日本の人口の都市化

|       |    | (%)  |       |      |       |
|-------|----|------|-------|------|-------|
|       |    | 市部人口 | DID人口 | 市部面積 | DID面積 |
| 1920大 | 9  | 18.0 | 30.2  | 0.4  | -     |
| 1930昭 | 5  | 24.0 | 33.7  | 0.8  | -     |
| 1940  | 15 | 37.7 | 36.4  | 2.3  | -     |
| 1950  | 25 | 37.3 | 33.8  | 5.3  | -     |
| 1955  | 30 | 56.1 | 38.5  | 18.0 | -     |
| 1960  | 35 | 63.3 | 43.7  | 22.0 | 1.0   |
| 1965  | 40 | 67.9 | 48.1  | 23.5 | 1.2   |
| 1970  | 45 | 72.1 | 53.5  | 25.3 | 1.7   |
| 1975  | 50 | 75.9 | 57.0  | 27.1 | 2.2   |
| 1980  | 55 | 76.2 | 59.7  | 27.2 | 2.7   |
| 1985  | 60 | 76.7 | 60.6  | 27.6 | 2.8   |
| 1990平 | 2  | 77.4 | 63.2  | 27.9 | 3.1   |
| 1995  | 7  | 78.1 | 64.7  | 28.2 | 3.2   |
| 2000  | 12 | 78.6 | -     | -    | -     |

注:総理府統計局編『日本人口の地域分布とその変化』1983。  
1985年以降は『日本統計年鑑』他による。1955年以前の  
DIDの数値は大友繁の推計値。



## 都市のヒエラルヒー

- 首都から農村集落まで結節する範囲のよる都市のヒエラルヒー  
東京—仙台—弘前—田代—大秋—白沢

※鈴木は「農村社会学原理」-「都市社会学原理」-「国民社会学原理」と社会構成の原理を統一的に説明しようとした。

## 機関の集積と都市成長・都市規模

- 江戸時代:江戸・京・大坂の三都の次は金沢、名古屋、鹿児島、仙台
- 三都に次ぐ長崎は貿易衰退により元禄期に比べ幕末は人口半減
- 江戸は幕末最盛期に140万あったとされる人口は70~80万人に激減明治20年代まで江戸の人口を回復せず
- 江戸時代は農業社会でその統合する範囲により人口が決まる
- 明治以降:明らかに機関所在地が成長
- 現代は大都市近郊の非独立的都市が人口多大

## 人口成長の要因

- 機関の中でも  
中枢管理機能の所在がきく  
参考:坂下昇「日本都市の成長要因」(『三田学会雑誌』1980年)

## 鈴木栄太郎の都市関与圏

- 都市関与圏
  - ①都市生活圏—第一生活区
  - ②都市依存圏—通勤・通学圏
  - ③都市利用圏—商店、各種サービス利用圏(商圈)
  - ④都市支配圏—都市結節機関の管轄区域(行政官庁の管轄範囲、企業支社等の担当範囲)
  - ⑤都市影響圏—マスコミの可能な範囲
- ※①~⑤は入子細工という想定
- ※現代社会、とくに大都市圏における範囲の錯綜

## 補足:今日の都市景観

- かつて都市にはそれぞれの機関建築物とその関連施設があった
- 今日の都市保存、都市観光の方向
- モニュメントから町並みへ
- 見学から体験へ
- どの時代を設定するかにもよるが、機関とその施設がなくなることによる維持困難さ

## 補足:矢崎武夫の統合機関説

- 矢崎武夫『日本都市の発展過程』(1962年)
- 大都市における社会統合の機関の存在による都市発展
- 政治、行政、マスメディア、文化の機関
- →スカイツリーはマスメディアの装置

## 3.世界都市

- 世界経済の結節点となる都市
- 世界都市world city,グローバル都市global city
- 世界経済の中枢管理機能の集積による都市構造の生成
- 多国籍企業の本部、金融機関の集積
- 中枢管理機能補助産業の集積(法律事務所、会計事務所、広告)
- 高技能高所得職種と低技能低所得職種への二分化
- 低所得職種への移民労働力の流入

## 世界都市(J.フリードマン)

